

2017.11 発行

子ども食堂 だより

vol. **3**



子ども食堂 NEWS

その1
子どもの笑顔はぐくみプロジェクト
キックオフフォーラム 開催！

その2 実践者研修会
開設準備講座 を開催しました

子ども食堂リレートーク
file.3 かしわざ「わいわい食堂」

遊べる・学べる
淡海子ども食堂が **74** ヶ所 になりました！



「遊べる・学べる淡海子ども食堂」の継続的な運営等を バックアップし、子どもを真ん中においた地域づくりをさらに進めるための応援団をつくる「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」。

このプロジェクトのスタートにあたり、8月20日にキックオフフォーラムを開催しました。県内外から、子ども食堂を運営している方、企業や法人の方、行政の方、学生の方など、約250名の方にご参加いただきました！

① ハグ♥トーク

前半の「ハグ♥トーク」では、滋賀県知事の三日月大造さん、社会活動家・法政大学教授の湯浅誠さん、ファブリカ村村長の北川陽子さん、子ども食堂ひがしっこの小西由美子さんにご登壇いただきました。



うちの子ども食堂は、子どもでも大人でも「だれでも来ていい」場所になっています。声かけをしても、すぐには来てくれない子どももいるけれど、一度参加してみたときにあったかい、楽しい雰囲気が伝わることで、それからは毎回楽しみに来てくれるようになりました。

「いつもお世話になっているので、これは私たちの気持ちです。」と子ども達が折鶴をくれたことがあって、感動しましたね。遊ぶ、学ぶ、食べるだけでなく、こういう思いをつくることができたのかな、と思いました。

また、活動が続ける中で、農家の方が野菜を提供してくれたり、地元の先生が勉強を教えに来てくれたり、公民館の職員さんがマジックを披露してくれたり…。地域の人は「次いつするの？何が？」と声をかけてくださるようにもなりました。



子ども食堂 ひがしっこ
小西由美子さん



ファブリカ村 村長
北川陽子さん

私は、東近江市で地場産業・麻織物の工場を改装し、居場所づくりとして、週末のカフェギャラリー「ファブリカ村」をしているほか、「子民家」という居場所にも関わっています。

「子民家」の活動の中でみんなで一緒に食事していますが、おなかを満たすだけでなく、みんなで分け合って食べることを通して、他の人への思いやりが出てきたり、配膳の方法なども教えたり…。単なる食事ではなく、食事を通じて自然に学ぶことが大事だと思っています。

友だちが調理に来てくれたり、商店街の園芸屋さんが苗を分けてくれたり、流しそうめんの時期には大工さんが竹を切ってきてくれたり、みなさんができることをできる範囲で協力もして下さっています。協力してもらってばかりなので、何かのときには手伝いにくいような恩返しもしていきたいですね。

本当に困っているとき、何か気づいたとき、行政や学校などにつないでいくことも大事なので、行政も子ども食堂と絶えずコミュニケーションをとっておくことも大事だと思いました。

幸せだと感じるのは、だれかと一緒にいることがベースになっていると思うんです。特に「さみしい」「困っている」と言い出しにくい子にも安心できる居場所が提供されているのは、豊かな地域社会にとって大切だと思います。県もしっかりバックアップして、このスポンサー募集をいろいろな方々と一緒に進めていきたいと思っています。



滋賀県知事
三日月大造さん

一人ばっちで食事をしている子と一緒に食事をしたい、いろんな人が関わる活動をしたい、と始めたのが「子ども食堂」。実際の運営では、「どなたでもどうぞ」としているところが多いです。

ただ、だれでも来ていい居場所といっても、何かあったときには対応できるようにしておくことは大切です。岩手県の子ども食堂では「隠れメニュー」として、表には出さないけれど、虐待などのサインに気付いたときにどうしたらいいか、スタッフが知っていることも大切だと言っています。

近江八幡市のむさっ子食堂は「こんにちでは終わらない地域づくりがしたい」と話されていました。顔見知りでも外で出会ったとき、あいさつくらいで終わってしまうけれど、普段からいろんなことを一緒にやっている、こんにちの後に言葉が続く。そういう地域づくりをしたくて「子ども食堂」をされているそうです。

なぜ「子ども食堂」が地域づくりになるのかというと、子どもは将来地域を担うからという側面や、地域の人が顔を合わせる機会、いろんな関わり方をつくるためのひとつ切り口として行われているからです。

「子ども食堂」が地域に浸透していくためには、みなさんが積極的にかかわってくれることが大事。

ごはんだけじゃなく、かまってもらう時間、雑談の時間も大事。将棋を打ちたい人が打ちにくる、送迎だけ担ってくれる、そういうことがひろがるとその場も豊かになって、関わる人もバリエーションが増えていくのです。「こういうことができないとだめ」と限定しないで、いろんな自分の得意を提供してもらえると、それを待っている人がいます。



社会活動家・法政大学教授
湯浅誠さん

② 子ども食堂リレートーク

後半は、子ども食堂の実践者によるリレートークでした。日野町の「日野こども食堂 ひまわりカフェ」、大津市の「出会い食堂♥よっといで〜♥」、彦根市の「ビハーラ子ども食堂」のみなさんに、子ども食堂の様子や、やっていてよかったこと等をお話していただきました。

参加された方からは「実践を聞き、滋賀県の各地の人の熱意や温かさを感じました。」「子どもたちのために何ができるが考えていきたい。」などの声をいただきました。



日野こども食堂 ひまわりカフェ 日野こども食堂 日野

開催日
月1回 土曜日
開催場所
日野公民館

スタッフ
地域ボランティア、
有志、レイカディア
大学ボランティアなど

スタッフの中に保育士や調理師などがあるので、それぞれの専門性を活かして活動しています。

保護者の方からも「安心なあの居場所をありがとう」、「今日もお世話になりました」など、お礼の電話をいただくようになったことが、うれしいです。そういう言葉で「次もがんばろう」と思えます。

地域のすべての子どもが笑顔になれるようにしていきたいと思っています。



日野こども食堂
武藤悦子さん 中西優衣さん

出会い食堂♥よっといで〜♥ 若葉町自治会・ピアンネ 大津

開催日
月1回 第3土曜日
開催場所
唐崎苑わかば集会所

スタッフ
ピアンネの仲間、
民生委員、福祉委員、VG
ひまわりのメンバーなど

民生委員さん、地域安全リーダーさんなどに子どもへの声かけをお願いしています。リーダー的な子どもにも声かけをお願いしていて、その子は“子どもスタッフ”としても活躍してくれています。

最初は「バランスのよい食事を」と思っていたが、「学校の給食は残さないようにがんばっている、家はお母さんが怖いから我慢している、ここであまり好きにさせて」という声から、カレーやハンバーグなど、できるだけ子どもの好きなメニューにしています。



若葉町自治会・ピアンネ
杉山泰子さん

ビハーラ子ども食堂 ビハーラ彦根 彦根

開催日
おもに第2・4木曜日
開催場所
純正寺本堂

スタッフ
ビハーラ彦根会員、
青少年育成協議会
会員など

メニューは3種類。
メインメニューのカレーやシチュー、丼など、サイドメニューにサラダ、そしてデザートです。

食事を取り分けたり、並べたりと配膳は参加している子どもたちみんなでやっています。

たくさんの子どものいる場には来にくい子に個別に声かけをしながら、“裏”子ども食堂を展開していきたいです。



ビハーラ彦根
漢見覚恵さん



滋賀の子どもたちをみんなで抱きしめましょう！

子どもの笑顔はぐくみプロジェクトって？

「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト（はぐプロ）」って？

現在、県内74ヶ所にひろがる「遊べる・学べる淡海子ども食堂」の継続的・安定的な運営のバックアップ等、子どもを真ん中に置いた地域づくりをさらにすすめるための応援団をつくるプロジェクトです。

さまざまな背景を抱えた子どもたちが、ほんとうにうれしい気持ちになれる居場所がひろがり、子どもたちの笑顔をはぐくむコミュニティをいっしょにつくりましょう！

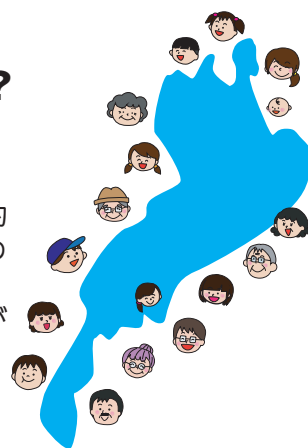
子どもの笑顔のために、さまざまな応援をしてくださる方を「子どもの笑顔」の「スポンサー」と呼び、以下のようなサポートを募集しています。

- ・食材（野菜・肉・お菓子...）の提供
 - ・お金の寄付
 - ・子どもと遊ぶボランティア
 - ・勉強サポートボランティア
 - ・子ども食堂の開催場所、調理場や遊び場の提供
 - ・さまざまな体験の提供
 - ・子どもの居場所の運営など
- 子どもを真ん中においた地域づくりに関する取組 などなど！

現在、事業所や個人の方から約50件のスポンサー申込やお問合せをいただいております。

スポンサーからの善意をお届けするため、子ども食堂を運営してくださっているみなさまにも、登録をしていただきたいと思います。

スポンサー登録に関しては、別途事務局より、ご案内させていただきます。



遊べる・学べる

淡海子ども食堂が

74ヶ所に

なりました!!

2017年10月現在

みなさんから送っていただいた「子ども食堂 開催結果報告書」のコメントをランダムにピックアップしました。

他の子ども食堂の様子を知っていただける場になれば、うれしいです!

子ども達も当番制で準備(調理、会場づくり)や後片付けに参加してくれている。

●栗東 BBS 子ども食堂【栗東市】

毎回、受付時に次月の予約などしていただいておりますが、新規に問合せをされる方が多くなりました。普段、余り家で食べない子供もすごい食欲が旺盛で誰もが驚きです。

●あやの(みんなの居場所)子ども食堂【甲賀市】

買い出しにいっしょに行った男の子。当日も手伝う気満々で来てくれて、はにかみながら食事づくりをしてくれていた。

「自分の役目」を買って出てくれる子どもがいたことが嬉しい。

●ぱっぱ屋【大津市】

何も言わなくても後片付けができるようになって来た。

調理担当の方が一人増えた。調理して下さる方々もだんだん手ぎわよく、休みながらできるくらいになってきた。

●ふたば・あすなる食堂【野洲市】

笛吹童爺さんから、環境学習でよしが大変な役目を果たしていること等、説明された後に、プープー笛を全員で作し、よし笛演奏を楽しく聞かせて頂き、子ども食堂では、手の込んだ食事をして頂き、子どもたちも定食みたいと喜んでいただきました。

●子どもの学習支援と居場所づくり in のぞみ食堂【大津市】

メニューによって参加者の増減はあると思います。子ども達は元気に仲良くだれ共遊んでいます。幼児を遊ばす様子も見られます。

高齢者の方もゆっくりとされ子ども達に声をかける様子も見られます。

スタッフも子ども達の為に頑張って食事作りをしています。

●子ども食堂ひがしっく【守山市】

厨房スタッフは前日から準備に入り、当日は9時前から毎回楽しく費用は低いが、彦根1番のカレーをつくると言って頑張ってくれている。厨房スタッフが仲良く取り組んでくれている事は嬉しい事です。

●さわやま子どもほっとランチ【彦根市】

「子ども食堂だより」は、子ども食堂を実際に運営しているみなさんに向けて、月1回の発行をめざしています。ご意見・ご感想、掲載したい情報、他の子ども食堂への質問などがありましたら、ぜひご連絡ください。

【発行・お問い合わせ】

滋賀の縁創造実践センター(滋賀県社会福祉協議会内)



〒525-0072

滋賀県草津市笠山7丁目8-138

TEL 077-569-4650

FAX 077-567-5160

MAIL enishi@shigashakyo.jp

子ども食堂

NEWS



2

開設準備講座

9月20日(水)に第4弾となる開設準備講座湖北会場を、米原地域福祉センターゆめホールで開催しました。



子ども食堂を始めたばかりの方、既に何度か開催されている方、社会福祉法人の方などが参加してくださっていました。

今回の実践報告者のこどもの居場所「まんま」さんや、湖北子ども食堂「リエゾン(Liaison)」さんが、グループトークでもこれまでの活動から具体的なお話をしてくださっていて、「そうすればいいのか!」、「いい話が聞けたわ!」などの声があがっていました。

参加者アンケートでは、「子ども食堂の重要性がわかった」、「実践者とながれて心強い」、「できるかもという気持ちになった」などの声をいただきました。

次回開催のお知らせ

第5弾は大津圏域で開催します。

日時 11月29日(水)
14:00~16:30

場所 明日都浜大津5階 大会議室
(大津市浜大津4丁目1-1)

実践報告

- ・子ども食堂「ひよしだい」さん
- ・ぜぜこども食堂さん

詳しくは、チラシをご覧ください。事務局までお問合せください。



滋賀の縁創造実践センター HP はこちらから!
(<http://www.shiga-enishi.jp>)